

## (8) 大学附属高等学校の運営計画

校長 今城 慰作

### 2020年度 年間聖句

「しかし、必要なことはただ一つだけである。」

ルカによる福音書 10章42節

### はじめに

2020年度の生徒募集は昨年に続き定員充足を上回る勢いです。入学者アンケートを分析しつつ、さらなる「教育内容」の充実を重点目標として学校形成を模索していきます。保護者が期待している「面倒見の良さ」や「一人ひとりの個性を尊重する」という教育姿勢の質を維持できるように一定の方策と努力が必要です。一方で財政基盤が厳しくなる中、大学入試改革、新学習指導要領への対応、課外活動の休養日の指針策定に加え、働き方改革をはじめ取り組むべき課題が多くあり、昨年度から少しずつ取組んでいます。本校の伝統を大切にしつつ、時代の変化に即した指導の在り方を模索していきたいと思えます。

### 1. 「建学の精神」に基づくキリスト教教育について

学校教育目標は「キリスト教の精神に根ざした他者と共に生きる自立した市民としての人格を育む」という言葉です。この言葉の意味が十分に理解され、具現化されているかを教職員がそれぞれに学びを深め続ける必要性を感じます。そして、日々、変化する個々の現場の出来事に対して、一貫した目標として浸透するために、その意味を問い続けなければなりません。

昨年度は、週のはじめの朝の打合せで、全教職員が「祈り」の当番を担当しました。また、週の初めに行う全校礼拝は、総合体育館に椅子を持っての移動というスタイルに変わりはありませんが、教職員や生徒の協力のもと定着しています。

### 2. 学習指導及び生徒指導について

#### 1) 学習

教科指導力を向上させるために、教員が研鑽を積むことを目標とします。ICT環境を整え、全校生徒に配付する（リース型）タブレット PC を活用した授業の創造を行います。これは急激に推し進めるのではなく、一定の時間をかけながら教員同士が形を作り上げたいと考えています。生徒が「学ぶ楽しさを実感する」ような仕掛けづくりができるでしょう。

3年前より「英語指導を強化」するため、全学年で行った少人数の展開授業が完成年度となりました。英検の2次の面接対策としての学生アシスタントの活用などを通して、英検取得率の向上など一定の効果が出ています。しかしながら目標としていた北星学園大学の英文学科への進学者は伸びませんでした。要因を分析したいと思います。

特進コースの勉強合宿は、外部の施設を使った取組みを継続する方針ですが、財政的な見通しを考慮に入れながら、より効果的な指導方法を模索します。

#### 2) 厚生・生活指導

6月に全校生徒でクリーン活動を行っています。また部活動単位で定期的にもクリーン活動やボランティア活動を行っています。地域のごみ拾いやボランティアを通して、日頃の生活や地域との結びつきについて見直す機会となっています。校舎は、生徒会の厚生委員や吹奏楽部、野球部を主体にして、常に美化を行っています。「生活指導」については、隣人を思いやる人間性を「育てる」ことを継承しつつ展開していきます。

### 3) クラブ指導

「強化指定クラブ」は、野球部が2年連続で夏の南北海道大会に進出しました。吹奏楽部、男女バスケットボールは、力をつけています。フットサルチームは全国大会出場を決めるなど、実績を残しつつあります。2020年度は、クラブ活動を通して社会で生きるための資質を身に着けることができるように、外部のアドバイザーの意見を聞きながら構築したいと考えています。

### 4) 進路指導

附属高校として、北星学園大学への指定校推薦枠100名を推薦できるように、大学のアドミッション・ポリシーも意識しつつ、大学の魅力を発信し取り組みました。大学の教職員の方々のご協力に感謝いたします。今年度も引き続き、大学の出張講義や、オープンキャンパスなどを活用し、1、2年生の早い段階で、進路選択を促す取り組みを行いたいと考えています。また、掲示板を使って北星学園大学の学生がメディアで取り上げられているユニークな取り組みなどを紹介するコーナーを作り、大学の魅力を発信できるような仕組みを作りたいと考えています。

## 3. 教職員の資質向上について

夏期、冬期研修会に、外部講師を招いて、適宜必要なテーマを設定し、全教員対象に講演を企画しています。特にICT教育の推進や、特性を持つ生徒への対応などを学びました。また個人で教科指導の研修に参加し、職員会議で報告を行っています。これらは継続して行います。

## 4. 生徒募集について

「高大接続」と「英語教育の強化」に加えて、本校の教育理念を語り本校独自の校風や行事を継続してアピールしていきます。学校説明会等でのプレゼンも工夫をして、より一貫したテーマで広報活動ができるように取り組みます。

## 5. 教育環境及び施設整備、財政について

### 1) 建物

日常の活動において、気を付けているものの総合体育館とサブアリーナの破損が発生しています。これらは恒常的に破損する箇所もあるため一時的に対処するのみならず、抜本的な対策をしなければなりません。外部にトイレの施設がないため、クラブの練習試合などで見学に来られる外部の方が校舎を利用するため、防犯について何らかの対策を今年度考えなければなりません。

2020年度も定員を超過することが予測され全体で2教室が不足するため、情報室の一つを教室に転用する等の対応をしなければなりません。

### 2) ICT環境と推進

2019年度に全教室で無線ネットワークが使用できるようにインフラ整備を行いました。今後は校内のICT推進委員会を改編し、教育アドバイザー、外部の研修会に参加するなど研究と研鑽を積んでいきます。

### 3) 財政目標、財政改善の取組み

収入の面では、消費税増税と就学支援金制度の改正のタイミングで授業料の値上げを行います。支出の面では、予測していたものの人件費が年々上昇しており、できる限り専任職員がコマ数を持っていますが限界があります。持ち出しの多いスクールバスについては、在り方を見直すために、ワーキンググループを発足し、具体的に運行状況の見直しを進めています。

## 6. 高大連携及び地域連携について

3年前から宗教部が全校生徒を対象に奉仕活動を奨励してきました。有志で地域の教会や福祉施設、幼稚園などの行事にボランティアとして参加しています。社会とのつながりを意識する上でよい体験となっています。

### おわりに

中長期計画のグランドデザインをもとに「強化・改革に取り組む事柄」を明確にし、計画性ももたながら長期的なスパンで取り組みます。本校の魅力を発信し、未来を生きる生徒の可能性を信じ、教育活動を模索します。

以 上